

呼び名が魅力に及ぼす影響に関する検討

榎本 悠希（指導：薊理津子准教授）

キーワード：呼び名、感情状態、魅力

問題・目的

名前がその名前を呼ばれる人間の顔に影響を及ぼす可能性が指摘されている (Zwebner et al., 2017)。また、感情状態が顔に影響を及ぼすことが示されている。Löhmus et al. (2009) は、衣服を用いて女性の感情状態を操作し、感情状態が女性自身のニュートラルな表情にどのように影響するか、また、女性の感情状態が、男性による女性の魅力評価にどのように影響するかを検討した。その結果、男性が「最も魅力的である」と評価した顔は、女性がポジティブ感情を刺激される「魅力的な服」を着用しているときのものであった。そして、男性が最も魅力的ではないと評価した顔は、女性がネガティブ感情を刺激される「魅力的でない服」を着用している時の顔であった。

本研究では呼び名を用いて感情状態を操作する。ポジティブ感情を刺激する「呼ばれたい呼び名」条件と、ネガティブ感情を刺激する「呼ばれたくない呼び名」条件に加えて、統制条件として「苗字に「さん」付け」条件を設定し、呼び名によって魅力に差が生じるか検討することを本研究の目的とする。仮説として、Löhmus et al. (2009) に基づき、「呼ばれたい呼び名」条件が最も魅力が高いと評定され、「呼ばれたくない呼び名」条件が最も魅力が低いと評定されると考えられる。

方法

本実験のための準備 実験材料の写真は、クラウドソーシングサービスを提供するランサーズで募集した。協力者は 22 名（男性 10 名、女性 12 名、平均年齢 27.95 ± 4.50 歳）であった。協力者には「呼ばれたい呼び名」、「呼ばれたくない呼び名」、「苗字に「さん」づけ」で呼ばれた場面を想像し、それぞれの顔写真を撮影するよう依頼した。撮影時の注意点として、全ての写真で特定の感情を表に出さず表情を作らない、同じ髪型や角度にするよう求めた。

撮影後に Google form によるアンケートに回答を求めた。質問内容は①フェイス項目（性別・年齢）、②撮影時の快適さ、③自分にどのくらい自信があるか、④撮影に使用した機材、⑤呼ばれたい呼び名に関する質問（思い浮かべた呼び名、いつからその呼び名で呼ばれているか、その呼び名をどの程度気に入っているか（7 件法）、その呼び名がどのくらいの頻度で呼ばれているか（6 件法）、その呼び名が相応しいと思うか（5 件法））、⑥呼ばれたくない呼び名に関する質問（⑤と同様）、⑦苗字に「さん」付けで呼ばれたときに関する質問（思い浮かべた呼び名を除き⑤と同様）で構成された。

本実験 ランサーズ上で募った 151 人（男性 81 名、女性 65 名、無回答 5 名、平均年齢 41.32 ± 8.88 歳）を対象に Google form を用いて本実験を行った。

質問内容は①フェイス項目（性別・年齢・職業）、②顔写真の魅力順位付けで構成された。上記で収集した写真を、全て同じ大きさになるよう加工して用いた。実験では 3 つの条件の顔写真 3 枚を横並びに提示し、順位付けの際には「A, B, C の 3 枚の写真を見て、魅力的に見える順に順位付けをしてください。必ず、3 枚の写真の評価が重複しないように判断してください」と教示した。また、刺激提示順序のカウンターバランスをとるために、人物と呼び名の提示順序が異なる計 6 パターンを作成した。実験参加者には、その内の 1 パターンに回答を求めた。本研究は江戸川大学の研究倫理審査委員会の承認（承認番号：R02-003A）を得た上で実施された。

結果

眼鏡をかけた人物の刺激を削除し、21 名の写真に対する回答を分析対象とした。そして、値が大きいほど魅力の順位が高くなるように魅力の順位について逆転処理をした。まず、「呼ばれたい呼び名」、「呼ばれたくない呼び名」、「苗字に「さん」付け」の写真によって魅力の順位付けに差があるか検討するために、フリードマン検定を行った。その結果、0.1%水準で有意な差がみられた ($\chi^2 = 101.26$, $df = 2$, $p < .001$)。下位検定の結果、「呼ばれたい呼び名」、「苗字に「さん」付け」、「呼ばれたくない呼び名」の順で有意に評価が高かった（全て $p < .001$ ）(Fig.1)。

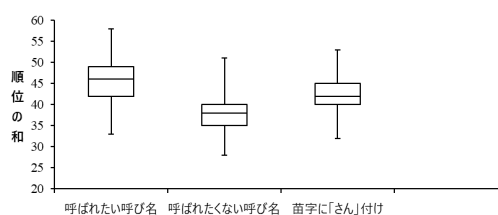


Fig.1 各呼び名の順位之和
ボックスの中心線は中央値、ボックスは25パーセンタイルと75パーセンタイル、ひげは10パーセンタイルと90パーセンタイル

協力者が思い浮かべた呼び名が実際に呼ばれたことがあるかを確認したところ、7 名が「呼ばれたくない呼び名」を「実際に人から呼ばれたことは無い」と回答していた（内 1 名は「苗字に「さん」付け」にも回答）。そこで、この 7 名と、それ以外の「呼ばれたことがある」14 名に分け、フリードマン検定を行った。結果、「実際に人から呼ばれたことは無い」人を対象とした分析では有意差が示され ($\chi^2 = 6.18$, $df = 2$, $p < .05$)、「苗字に「さん」づけ」は「呼ばれたくない呼び名」よりも魅力的に評価される傾向が示された ($p < .10$)。一方、「呼ばれたことがある」人を対象とした分析においても有意差がみられた ($\chi^2 = 124.05$, $df = 2$, $p < .001$)。下位検定の結果、「呼ばれたい呼び名」、「苗字に「さん」づけ」、「呼ばれたくない呼び名」の順に魅力が高く評価された（全て $p < .001$ ）。そこで、「呼ばれたい呼び名」を「いつから呼ばれているか」の回答を確認した。「幼少期・小学生時代から」と回答した人の割合は「実際に人から呼ばれたことは無い」人が 28.6%、「呼ばれたことがある」人が 57.1%であった。また、「どのくらいの頻度で呼ばれているか」については、「実際に人から呼ばれたことが無い」人では平均 3.14 (± 1.55)、「呼ばれたことがある」人では 4.14 (± 1.41)であった。

考察

本研究では「呼ばれたい呼び名」条件が最も魅力が高いと評定され、「呼ばれたくない呼び名」条件が最も魅力が低いと評定されるという仮説を支持する結果が得られた。協力者が思い浮かべた呼び名と関連する思い出や、その呼び名を呼ぶ相手への感情が刺激され、協力者の表情に微妙な影響を与えたと考えられる。また、思い浮かべた呼び名を「呼ばれたことがある」人と、「実際に人から呼ばれたことは無い」人とでは異なる結果が示された。「呼ばれたことが無い」人は、「呼ばれたことがある」人よりも「呼ばれたい呼び名」を呼ばれている頻度が低く、その期間も短かった。「呼ばれたことが無い」人は「呼ばれたくない呼び名」に関する具体的な経験がなく、また、「呼ばれたい呼び名」に関して想起されるエピソードが少ないために、感情経験が表情に表れにくかったと考えられる。